令和４年度第１回一関市総合計画審議会　会議録

１　会 議 名　令和４年度第１回一関市総合計画審議会

２　開催日時　令和４年７月15日（金）　午前10時から12時まで

３　開催場所　一関市役所　大会議室

４　出 席 者

⑴　委　員　砂金文昭委員、泉賢司委員、伊藤清里委員、大内早智子委員、
大沼佐樹子委員、尾形亜紀子委員、小野寺千絵委員、小岩邦弘委員、
齊藤裕美委員、佐藤柊平委員、佐藤紀夫委員、佐藤弘子委員、
東海林訓委員、菅原君代委員、菅原敏委員、館山壮一委員、千田博委員、
徳谷喜久子委員、三浦幹夫委員、若山義典委員

※欠席者　阿部新一委員、伊藤拓也委員、小山亜希子委員、千田久美子委員、
永澤光宏委員、廣長千鶴子委員、吉田正弘委員

⑵　ﾌｧｼﾘﾃｨﾀｰ　いちのせき市民活動センター
小野寺浩樹センター長、千葉歩主任支援員、佐々木牧恵主任支援員、
鈴木純香支援員、村上駿輔支援員、金野勇希支援員

⑶　事務局　鈴木淳市長公室長、菅原稔市長公室次長兼政策企画課長、
鈴木敏宏政策企画課課長補佐兼政策推進係長、
渡辺苑子政策企画課主任主事、熊谷尚孝政策企画課主任主事

５　議　　題

⑴　令和４年度予算の概要と一関市総合計画実施計画（令和３年度第３回審議会における議題）について

⑵　一関市総合計画各分野の継続課題と新規課題について

６　公開、非公開の別　公開

７　傍聴者の数　１人

８　挨　　拶

小岩会長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

令和３年度第３回目の一関市総合計画審議会において、次回はワークショップを開催して皆さんから意見をいただくこととしておりました。本年度は、次の一関市総合計画策定に向けて課題等、意見をいただきたいと考えているのでよろしくお願いします。

また、いちのせき市民活動センターの皆さんもお忙しいところご協力をいただきありがとうございます。

次の一関市総合計画の策定に向けては、10年間の計画を立てるものですので、細かい部分もたくさんありますが、広い視点で一関市の課題について議論していただきたいと思います。

10年前には考えられなかった新型コロナウイルス感染症の発生で、世の中はだいぶ変わっています。これからは、Withコロナの社会の中で一関市をどのようにしていくか、また、ウクライナでの戦争のこともありますので、世界的に見てどうなのか、今の日本の動きの中で、一関市はどのようにすればよいのかという視点で考えていただければ、良い総合計画ができると思うのでよろしくお願いいたします。

9　審議の内容

事務局から資料№.１から資料№.６まで説明を行った後、議題についてワークショップを行った。

以下、グループ①～⑤に分かれて行ったワークショップで出た意見を、いちのせき市民活動センターが全体に共有した内容。

⑴　グループ①　地域資源をみがき生かせる魅力あるまち

継続課題との向き合い方としては、発想の転換や視点を変えるということがキーワードである。農業に関しては、米主体からの発想の転換が必要で、米価下落や国の支援策に右往左往するのではなく、一関市が主体的に行えるものへ視点を変えることが必要なのではないか。違う作物への転換ということばかり考えられるが、そうではなく新しいジャンルへの転換が必要である。例えば、新しいジャンルとしてペット関連の分野も視野に入れてはどうか。発想の転換として、今までの米主導の考え方からは切り替えなければならない。

林業の関係では、伐ったままの状態になっている場合が多いので、植林を促していくような仕組みとして、エネルギーの源であるという考え方を持たせることと、植林を雇用に結びつけていくような仕組みを作っていくというのが新しい課題である。また、地域内循環の仕組みとして、ボイラーに使うだけでなく、ほかの使用機会を増やしていくことが必要になってくる。

工業、商業、サービス業、雇用の分野では、ただの企業誘致ではなく、子育てとの両立など複合的に連動させて考えていかなければならない。住みたいまちと住みやすいまちは異なる。例えば、医療費の助成は「住みやすい」の要素の１つではあるが、「住みたい」とは違うのではないか。一関市として「住みたい」の要素を考えていくことが重要である。

⑵　グループ②　みんなが交流して地域が賑わう活力あるまち

話合いの最初は、都市間交流や国際交流は、市民感覚ではピンとこないので優先順

位が低いという意見だった。しかし、話を進めていくうちに地域づくりをするには、地元愛や地元を誇りに思う気持ちが必要で、そのためには様々な環境に触れることが重要であるため、都市間交流や国際交流が必要になるのではという話になった。

一関市結婚新生活支援補助金について、なぜ年齢制限があるのか。総合計画に記載されている課題を見ると、人口減少のスピードを少しでも緩やかにするために結婚活動支援が求められているとある。これでは子を産むために結婚をするのかという話になるので、若者の視点で様々な人のニーズを把握しながら、どういう支援が必要なのか考えていかなければならない。

⑶　グループ③　自ら輝きながら時代の担い手を応援するまち

継続課題として挙げられているのが、そもそも的外れである。総合計画は理念の話をするべきなのに、支援策のことばかり挙げられている。

また、子育て支援に関する課題として、関連機関が連携しながら地域全体で子育て家庭を支えていくことが書かれているが、家庭との取組みの具体策がないまま、課題として挙げられ続けている。子育てを学ぶ場所を作ることも大切であり、保育所の一部を利用して、講座を開催するなどの取組みも必要なのではないか。市だけではなく、企業としても協力するべきことがあり、休みを確保できるよう奨励しますというだけでなく、もう少し協力する体制作りが必要である。

義務教育、生涯学習、青少年の健全育成等の課題も、子育て世代に関わってくることなので今後注力していくべきであり、そのことが、一関市は子育て支援が強いまちだというＰＲとなり、人口減少対策へも繋がると思う。

⑷　グループ④　郷土の恵みを未来へ引き継ぐ自然豊かなまち

前回の審議会で、令和４年度予算の説明があったが、エネルギー問題についてウクライナ情勢の話がなかったので、そもそもの考え方がずれている可能性がある。

このグループでは、継続課題として抽出されたのが１項目だけだったので、住環境と景観について重点的に考えた。

林業関係の話が多く出たが、10年前から「誰がやる」という部分が変わっておらず、若者にとっての仕事となり得るようなシステムを作る必要があり、仕事としてやっていくためには市のサポートが重要である。一関市の資源を考えるにあたっては、具体的にどういうシステムで回していくのかという、一関市としての考えを持つようにしたほうが良い。

⑸　グループ⑤　みんなが安心して暮らせる笑顔あふれるまち

ほかのグループで出た意見にもあったとおり、次期総合計画策定にあたっては発想の転換が必要である。例えば、医療体制について、医師の確保というところだけに視

点を置くのではなく、高齢化が進むと医療機関を受診する人は増えてくるので、運動面や栄養面、社会参加の促進など、病気の予防や健康づくりというところに視点を置いて計画を策定してはどうか。

地域福祉、高齢者福祉、障がい者福祉に共通した課題であるが、地域にいる民生児童委員が、コロナの影響等もあり地域を回りにくく、その地域にどういった支援が必要なのか分からなくなってきている状況にある。１人では回りきれないので人数の見直しや、保健推進委員との連携が必要である。また、成り手を確保するためには、これからはどの役職もボランティア形式で確保するのは難しくなってくると思う。

⑹　全体のまとめ

本日はワークショップ１回目ということで、継続的な課題となっているものと、今後、どのように向き合っていくかということを中心に話をしていただいた。必要性が少ないという部分も若干あったが、最終的には必要だという結論になったものもあった。

次期総合計画を策定するにあたっては、視点を変える、発想を転換するということを重点的に考えていかなければならないということが、皆さんから出された意見で見て取れる。また、行政が思いやりで作った施策が、市民にとっては違う捉え方になっているという指摘もあり、委員の皆さんが日頃のロの字型の会議ではなく、自由に意見を出し合う審議会が出来たことが、今回の大きな成果だと思っている。委員の皆さんは意見がたくさんあると思うので、このワークショップの中でどんどん出していただきたい。それが次期総合計画の基本の中に入ってくると思うので、３回のワークショップで意見を聴かせていただき、次の10年の基本構想に反映させていただければよいと思う。

10　その他

⑴　委員から一関工業高等専門学校の学生による取組みについて紹介があった。以下、意見等。

委　員　若者の施策について、話し合ってほしいとのことであったが、この審議会に学生や、10代、20代、30代などのこれからの一関市を担っていく人が参加するべきだと思う。若者がこうしていきたいと思うことを、様々な世代の方が集まっているこの場で話すことが大切である。

11　担 当 課　市長公室政策企画課